

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県角田市立東根小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒981-1533

宮城県角田市平貫字前河2

E-mail higashine-es@kakuda-c.ed.jp

Website //www.kakuda-c.ed.jp/higashine-es/

幼児児童生徒数 男子 12名 女子 24名 合計 36名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「全ての活動は ESD につながる」を合言葉に年間を通して、各教科、特別活動、道徳の時間において取り組んできた。

「体験的な学習活動や地域との交流活動、自然とふれあう活動を通し、主体的な実践行動による持続可能な社会を実現するための担い手を育てる。」をねらいとした教育活動を行った。

具体的には、①基礎（コミュニケーション能力／体系的・総合的・批判的な見方）②環境・防災③国際理解教育④人権・福祉教育についての学習を中心に行った。

① 基礎に係わる活動

校内では縦割り活動を中心にした児童間のコミュニケーション能力の育成を図った。また、保護者・地域の方々との合同運動会、合同防災訓練などを通して、地域の中の一員としての自覚を持たせた。小さな地域の中で、多くの人と関わることが少ない現状の中で、キャリア教育の一環として多くのゲストティーチャーを招くなど、人との関わり多く設けた。

② 環境・防災に関わる活動

本校は 2015 年度、2016 年度「宮城県防災教育推進指定校」として、防災・減災についての学習を深めた。今年度も引き続き毎月 11 日付近を「きずなの日」として、各学年の実態に合わせた学習を展開した。児童の防災・減災の意識についてはこの 3 年間の学習を通して高まりを見せている。休み時間に行われる初期対応訓練では児童自身が判断し避難を行うことができるなどの成果が見られている。また、地域との合同防災訓練を行うことで、地域全体で児童の子どもたちの命を守ろうとする取組になりつつある。

③ 国際理解教育に係わる学習

本校では、総合的な学習の時間に国際理解教育を位置付け、角田市の姉妹都市であるアメリカグリーンフィールド市訪問団の受け入れや、外国人留学生との交流活動を行っている。日頃の外国語活動での学習を生かして、英語でコミュニケーションを図るなど、異文化に対しての関心を高めている。

④ 人権・福祉に係わる学習

5, 6 年生では毎年地区人権委員による「人権教室」を行っている。また、今年度は全校児童で「人権の花運動」を行い、花の苗を植える活動を通して人との関わりや自然を大切にする心を育む一助とした。3, 4 年生では福祉体験活動を行った。市の社会福祉協議会の協力を得て、車椅子体験や、白杖体験などを行い、直接的な体験を通して感じ考えたことを交流した。



① ゲストティーチャーを招いた
志教育



② 初期対応訓練



③ 国際理解教育



④ 人権の花運動

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	■ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	■ 17. その他(遠隔地小学校との交流 鹿児島県南九州市立手養小学校)		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

■ 1. 教科の時間	■ 2. 総合的な学習の時間
■ 3. 特別活動等	■ 4. クラブ活動
□ 5. その他(自由記述)	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は、教育計画に「持続発展教育 ESD」を位置付け、ねらい、育みたい力、基本方針に基付き、各教科における指導事項の一覧を作成し、その学習を展開している。特に、生活科、総合的な学習の時間を中心に、地域、人とのつながりを重視した体験的活動を多く取り入れている。そのような学習活動を行っていく上で、担当者が変わっても人をつなげていくことができるよう、職員全員が様々な人との関わりをもち、取組の反省を行うことで指導改善を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

小規模校の特性を生かし、全学年の ESD に関する取組については担当学年、担当者だけではなく、全職員で共通理解を図りながら学習活動を行っている。また、学校からだけではなく、学校評価等を活用し、保護者、地域からも改善の意見を聞くなどして、より良い取組になるように改善を図っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価については、内部（職員・児童）外部（保護者・評議員）に対して毎学期末に行っている。各項目について数値での評価と記述での評価を行っている。

評価に結果から本校は、児童を中心に、保護者、地域、職員が協力して教育活動に取り組むことができていることが分かり、児童の意識も高まっている。反面、児童数の減少により、例年行っていることが同じ内容でできなくなっていくことが今後予想される。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ホームページや学校だより、学級だよりを中心に様々な学習活動を保護者、地域に発信している。ホームページについては学校長を中心に更新しており、その内容を毎回期待している保護者が多い。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学校以外の団体との協働について今年度は実施できていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールとの交流は行うことができなかった。しかし、震災以後、鹿児島県南九州市立手蓑小学校との交流は毎年行われている。手蓑からはお茶とサツマイモ、本校からは5年生が栽培した米や手紙のやり取りが行われている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

特になし

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

平成 29 年度に引き続き、教育計画の実行に努める。特に基礎となるコミュニケーション能力を中心とした体験的な学習や、防災・減災について児童、保護者、地域の連携と知識の定着と意識の向上を柱にした取組を行っていく。「全ての教育活動は ESD につながる」を合言葉に学校の独自性を生かした教育活動に努めていく。